

## 第十三章 萬国平和條約ノ調印及批准

一五四 明治三十二年十月十四日 蘭国駐劄珍田弁理公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和會議ノ決議ニ伊国政府調印ノ件

公第五五号

十二月一日接受

萬国平和會議ノ議決ニ係ル宣言並條約ニ對シテハ我帝國ヲ始メ自余雄國中ニモ未ク正式ノ調印ヲ与ヘサル者數多有之ハ已ニ御承知之通ニ候然ルニ此頃新聞紙上伯林通信ヲ視ルニ鼎立同盟ニ屬スル三国ハ愈々調印可致事ニ内議相整ヒタル趣記載有之候処果然一昨十二日ニ至リ伊国委員ネグラ伯爵ザニエー公使ハ当外務省ニ出頭ノ上右宣言並條約ニ調印致候猶外務當局者ノ内話ニ拠レハ該同盟ニ自余ノ二国モ多分次週中調印ノ運ニ相成可申トノ事ニ有之候本件ハ目下帝國政府ノ懸案ニ屬店候折柄關係外国政府ノ向背ハ御參考ノ一料可相成ト相考候儘右ノ次第本日不取敢電信ヲ以テ及具報置候  
右及具報候 敬具

明治三十二年十月十八日

在蘭国 弁理公使 珍田捨巳(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一五六 明治三十二年十月三十七日 蘭国駐劄牧野公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和條約填国調印ノ件

公第七十三号

十二月七日接受

彙ニ海牙府開設ノ萬国平和會議ニ於テ填洪国第一派遣委員タリシ「ウエルゼルスハイム」伯ハ去週填洪国ノ名義ヲ以テ右會議決議書ニ記名調印ノ為メ海牙ニ出張セラレ候ニ付當館書記官ヲ以テ何々ノ決議書ニ調印セラレタルヤヲ質候処三個萬国條約書及ヒ三個宣言書トモ悉ク之ニ調印シタル由ニ有之候然ルトキハ填洪国ハ仲裁ニ関スル萬国條約、戰爭法ニ関スル萬国條約、ゼネヴワ萬国條約ノ元則ヲ海戰ニ準用スルコトニ関スル萬国條約並ニ輕氣球ヨリ彈丸下射ノ禁止ニ関スル宣言書、窒息瓦斯ヲ含ミタル彈丸ノ禁止ニ関スル宣言書、破裂銃丸ノ禁止ニ関スル三宣言書ニ加盟シタルモノト被存候

明治三十二年十月十四日

在蘭国 弁理公使 珍田捨巳(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一五五 明治三十二年十月六日 蘭国駐劄珍田弁理公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和會議ノ決議ニ填国政府調印ノ件

公第五六号

十二月一日接受

萬国平和會議之決議ニ係ル宣言並條約ニ對シ調印ノ件ニ付独填兩國モ伊国ニ引続キ調印スベキ模様有之趣ハ去十四日附公第五五号信ヲ以テ及具報置候処越ヘテ本月十七日ニ至リ填国全權委員 R. De Walshehelm 伯爵及副委員 De Okeicema 全權公使ハ同日当外務省ニ於テ右宣言並條約ニ調印致候間其旨本日不取敢電報ヲ以テ及具報置候  
右及具報候 敬具

右及報告候 敬具

明治三十二年十月廿七日

在填国 特命全權公使 牧野伸顯(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一五七 明治三十二年十月二十八日 蘭国駐劄珍田弁理公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和會議ノ決議ニ對シ英國政府調印ノ件

公第六〇号

十二月七日接受

本日電信第七十七号ヲ以テ及報告置候通り萬国平和會議蘭国委員ロルド、ポーンスフォート及サル、ハワルド両氏ハ昨廿七日当国外務省ニ出頭ノ上過般協定ヲ經タル約定及宣言ノ中國際爭議ノ平和的処分ニ関スル規約並ニ陸戰ノ法規及慣例ニ関スル規約ニ對シ夫々調印ヲ与ヘタル趣而カシテ一八六四年ジュネーブ條約ノ原則ヲ海戰ニ適用スベキ規約ニ對シテハ其第十條ノ規定本国ノ法律ニ抵触ノ虞之アル為メ調印スルコト能サルモ若シ該條項ニ對シ非認權ヲ保留スルヲ得ハ全約定ニ調印無差支旨申陳ヘタル由ナレトモ右

ハ勿論蘭国政府ノ独断ヲ以テ諸否ヲ決シ得ベキ事体ニアラサル故ニ結局前述ノ通り単ニ兩約定ニ耳調印スル事ニ相成候趣ニ有之候此段及具報候 敬具

明治三十二年十月廿八日

在蘭国 弁理公使 珍田捨巳(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一五八 明治三十二年十二月六日

白国駐劄本野公使ヨリ  
青木外務大臣宛(電報)

萬国平和條約ノ決議ニ英國政府ノ調印方ニ關スルノ件(一)

十一月六日 着

青木外務大臣

在 白 本野全權公使

第十八号

蘭国外務大臣ハ本官ニ告テ曰ク英國委員ハ十月二十七日ヲ以テ仲裁條約及「ブルッセルス」條約ニ調印セリ而シテ英國委員ハ「ゼネーヴァ」條約ニハ第十條ニ關シテ保留ヲ為サバ之ニ調印スルヲ得ベシト宣言シタルヲ以テ蘭国外務大臣ハ平和會議ニ参列シタル各國ノ承諾ナキニ於テハ該保留ヲ

為スコト能ハサル旨ヲ抗言セリト、然リ而シテ第十條ハ最緊要ナル條項ニモ非ラス且ツ各國殘ラス同條約ニ調印センコトヲ希望スルヲ以テ蘭国外務大臣ハ日本国政府カ英國ノ保留ニ同意センコトヲ請求セリ委細ハ十一月十一日便ヲ以テ申報スベシ

一五九 明治三十二年十二月七日

白国駐劄本野公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和會議ノ決議ニ英國政府ノ調印方ニ關スルノ件(二)

附屬書

十一月三日蘭国外務大臣來翰

英國政府「ジェネヴァ」條約第十條ニ保留付調印ニ關シ日本政府ノ承認方依頼ノ件

機密第十一号

十二月十八日接受

和蘭国外務大臣ボウフワート氏ハ本月三日附書面(別紙等附屬)ヲ以テ列国平和會議ノ成約ニ對スル英國政府ノ調印ニ關シ本使ニ報導スル処有之候其趣ニ抛レハ英國政府ハ今回ロルド、パウンスフワート及蘭国駐劄英國全權公使サ、ホウアードノ両氏ニ訓示シテ該會議成約中列国紛議ノ

平和的調停條約及陸戦法規ニ關シテハ何等ノ保留無クシテ調印シヌジェネーヴ條約ヲ海戦ニ適用スル條約ニ關シテハ其第十條ニ對シ保留ヲナシテ調印ス可キ事ヲ命ジタル趣ニテ右両氏ハ客月廿七日ヲ以テ其旨趣ヲ蘭国外務大臣ニ通牒シタル趣ニ御座候而シテ右英國政府ガジェネーヴ條約ノ海

戰適用ニ關スル條約第十條ニ對シ保留ヲナスノ理由ハ英國現行ノ法制ハ該條ノ適用ヲ許ササルガ故ニ英國領土ニ上陸シタル戰國ノ病傷兵ニシテHabeas corpus 條例ニ基キ自由解放ヲ要求シタル場合ニハ英國政府ハ国内留置ヲ繼續ス

ルコトヲ得ス從テ該條ヲ適用スルガ為メニハ到底現行法制ニ對シ改正ヲ加ヘサル可カラズト云フニ有之候蘭国外務大臣ハ右ノ通牒ニ對シ成約ニ對スル保留ノ許否ハ自己ノ權限内ニ屬セサルヲ以テ到底事態ヲ叙シテ締盟列国ノ同意ヲ求ムルノ外無キ旨ヲ答ヘシカバ英國政府ノ全權委員ハ客月廿七日ヲ以テ仲裁條約及陸戦法規ノ二成約ノミニ對シテ調印シタル趣ニ御座候

蘭国外務大臣ハ右ノ事態ヲ報道スルト同時ニ同国政府ノ意向ヲ述ベ該條約中第十條ハ其緊要ノ程度ニ於テハ寧ロ第二班ニ屬スルノミナラズ英國政府ノ保留ヲ容レテ其調印ヲ遂ゲシムルハ該條約ノ成果ニ於テ一層ノ効益アル可キニ付帝

国政府ニ於テモ英國政府ノ保留ニ同意ヲ表候様致度旨申來候

右ノ概要ハ本月六日發第一八号電報ヲ以テ不取敢御報致置候得共猶茲ニ蘭国外務大臣ノ書面相添ヘ此段及報告候敬具

明治三十二年十一月七日

在白耳義国 特命全權公使 本野一郎(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

(附屬書)

十一月三日和蘭外務大臣來翰(訳)

英國政府「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ適用スル條約ニ保留付調印ニ關シ日本政府ノ承認方依頼ノ件

和蘭国外務大臣 ポレフオール

白耳義国駐劄

日本国特命全權公使 本野一郎貴下

以書翰致啓上候陳ハ萬国平和會議最終決議書ニ同會議ニ参列シタル諸国ハ千八百九十九年十二月三十一日マデニ條約書及宣言書ニ調印スルノ權利ヲ有スト規定有之候処大不列顛国皇帝陛下ハ何等ノ保留ヲ為スコトナクシテ國際紛爭平

和の處理條約及陸戰ノ法規慣例ニ関スル條約ニ調印スヘキ  
 旨海牙駐劄大不列顛國特命全權公使及ボーンスフォート卿  
 ニ訓令相成候旨同公使ヨリ十月二十七日附公文ヲ以テ本大  
 臣ニ通知有之且同國皇帝陛下ノ全權委員ハ千八百六十四年  
 「ジエネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル條約ニ関シテ  
 ハ其ノ第十條ニ對シテ保留ヲ為スニアラザレバ之ニ調印  
 スル能ハサル趣申越將又大不列顛國現行ノ法律ニ依レハ右  
 「ジエネヴァ」條約第十條ヲ適用スル能ハス何ントナレハ  
 英國ノ *hebes corpus* 條例ノ或ル條款ニ基キ俘虜力解放  
 フ要求スルトキハ右第十條ニ規定スル所ノ俘虜ノ拘留ヲ為  
 ス能ハサル力故ニ前顯ノ保留ヲ必要ト認メタリ若シ右第十  
 條ヲ實施セシメント欲セバ英國法律ノ改正ヲ要スベシト英  
 國公使ヨリ口頭ニテ本大臣ニ通知有之候

本大臣ハ右十月二十七日付公文ノ回答トシテ前顯最終決議  
 書ニ依レハ諸條約ニハ十二月三十一日マテニ調印スルヲ得  
 ルモノト規定シアレトモ實際ハ七月二十九日ノ日附ヲ要ス  
 ルモノナルヲ以テ特ニ千八百九十九年七月二十九日以前ニ  
 為シタル保留即チ萬國平和會議ノ議事録中ニ記載シテ各國  
 ノ政府及其ノ代表者ニ公然ノ通告ヲ為シタル保留ノミ認許  
 スヘキモノナルコトヲ英國公使ニ注意シ尙實際ノ点ヨリ

スル能ハスト雖モ尙ホ「ジエネヴァ」條約ノ博愛ナル目的  
 ハ充分之ヲ達スルヲ得ベシト存候

又右ノ狀態ヨリシテ或ル交戰國ノ為ニ多少ノ不便ヲ生スル  
 コトアルモノ之ヲ實際ニ適シ極メテ高尙ナル思想ニ基キ且著  
 シク海戰傷病者ノ困難苦痛ヲ輕減セシムヘキ「ジエネヴァ」  
 條約ノ慈善的効力ニ比スレハ實ニ些細ナルモノト本大臣ニ  
 於テ思考致候依テ本大臣ハ貴公使ヨリ右ノ趣ヲ日本國政府  
 ニ具申セラル、ト同時ニ同政府ニ於テモ右ノ保留ニ同意セ  
 ラレ且其ノ決議ノ次第ヲ成ルヘク速ニ和蘭國政府ヘ通知セ  
 ラレンコトヲ希望致候旨可然御傳達相成度右御依頼旁本大  
 臣ハ茲ニ貴公使ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

千八百九十九年十一月三日 海牙ニ於テ

一六〇 明治三十三年十一月九日

青木外務大臣ヨリ  
 山県總理大臣宛

萬國平和會議ノ決議調印方ニ関シ請議ノ件並決裁

明治卅二年十一月九日發遣

機密送第二三二一號

内閣總理大臣

外務大臣

萬國平和會議最終決議書並ニ之ニ附屬スル該會議議定ノ  
 三條約及三宣言書ノ義ハ彙ニ訳文差進置候処右最終決議

考察ヲ下ストキハ或ル一國カ他ノ諸國ノ同意ヲ得ルニアラ  
 サレハ一箇若ハ數箇ノ條項ニ関スル保留ヲ為シテ條約ニ調  
 印スルヲ得ト云フ原則ヲ公認スルノ困難ナルコトヲ開陳シ  
 本大臣ハ右ノ認定ニ基キ「ジエネヴァ」條約第十條ニ関ス  
 ル保留ハ特ニ平和會議ノ議席ニ於テ為シタルモノニアラス  
 隨テ各國政府ニ通告シタルモノニアラサルヲ以テ本大臣ハ  
 平和會議ニ參列シタル諸國ノ大部分力調印シタル條約ノ保  
 管者タル資格ニ對シ締盟諸國政府ニ通告ヲ為サスシテ右保  
 留ヲ認許セル能ハサル旨英國公使ニ通牒ニ及ヒ候

大不列顛國全權委員ハ右ノ通牒ニ基キ去ル十月二十七日  
 ニハ國際紛争平和の處理條約ト陸戰ノ法規慣例ニ関スル條  
 約ニノミ調印相成候依テ本大臣ハ英國政府ガ調印ニ際シテ  
 為サンコトヲ希望セラル、保留ヲ關係ノ諸國ニ通知スベシ  
 ト宣言致候和蘭皇帝陛下ノ政府ハ右保留ノ採用ニ付キ何等  
 ノ保障ヲ見サルノミナラス世界第一ノ海軍國カ「ジエネ  
 ヴァ」條約ノ他ノ條項ニ加盟スルハ尤モ有益ナリト確信  
 スルヲ以テ大不列顛國全權委員ニ於テハ千八百九十九年十  
 二月三十一日前ニ右條約ニ調印セラレンコトヲ切ニ希望シ  
 保留ヲ要スト云フ規定ハ第二流ノ利益ナルヘシト存候大不  
 列顛國ニ於テ其ノ法律ヲ改正セサル限りハ右第十條ヲ適用

書ニ依レバ贊同國全權委員ハ該條約及宣言書ニ本年十二月  
 三十一日迄ニ記名シ得ルコトニ相成居候ニ付帝國全權委  
 員ニハ當時記名方為見合置キタル次第ニ有之候而シテ平和  
 會議ニ贊同セシ二十六箇國中當時該條約及宣言書ニ記名セ  
 ザリシ諸國ハ國際紛争平和の處理條約ニアリテハ帝國ノ外  
 ニハ独、澳、清、英、伊、盧森堡、塞爾比亞、瑞西及土耳其ノ  
 九箇國又陸戰ノ法規慣例ニ関スル條約及一八六四年八月二  
 十二日「ジエネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル條約ニ  
 アリテハ帝國ノ外ニハ右九箇國及米國ニ有之又三宣言書中  
 第一宣言書ニアリテハ帝國ノ外ニハ独、澳、清、英、伊、盧  
 森堡、塞爾比亞及瑞西ノ八箇國第二宣言書ニアリテハ帝國  
 ノ外ニハ右八箇國及米國ニ有之又第三宣言書ニアリテハ右  
 八箇國及米、葡ノ兩國ニ有之其ノ後、澳、伊及盧森堡ノ三國  
 ハ三條約及三宣言書ニ凡テ記名済ノ通知有之又英國ハ第一  
 及第二條約ノミニ記名シ第三條約ニハ其ノ第十條ガ自國法  
 律ニ抵触スルノ故ヲ以テ記名セザル旨通知有之候右ノ次第  
 ニテ目下尙ホ三條約及三宣言書ニ記名セサル贊同國ハ帝國  
 ノ外ニモ可有之ト被存候乍去三宣言書ハ何レモ軍器使用上  
 ノ制限ニハ有之候ヘ共軍備ノ擴張増大ヲ障礙スルモノニハ  
 無之且陸戰ノ法規慣例ニ関スル條約及一八六四年八月二十  
 二日「ジエネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル條約ト共

ニ各々其ノ規定ニ明文モアリテ非締盟國ヲ相手トスル場合ハ勿論相手方ニ非締盟國ノ加ハリタル場合ニモ何等遵守ノ義務ナキヲ以テ實際戦争ノ場合ニ片務的ノ束縛ヲ受クル憂ハ無之而シテ國際紛争平和的處理條約ハ何等義務的條款ヲ有セサルヲ以テ右三條約及三宣言書共帝國全權委員ヲシテ記名致サシメ差支無之義ト存候ヘ共義ニ軍器使用上ノ制限ニ対シ海軍大臣ニ於テ又前記三條約及三宣言書ノ目的トスル事項ニ対シ參謀總長及陸軍大臣ニ於テ何レモ各國一致ノ約束ヲ必要トスル歟ノ意見モ有之候ニ付為念更ニ閣議ニ於テ該三條約及三宣言書ニ帝國全權委員ヲシテ記名セシムルコトニ至急決定候様御取計相成度此段申進候也

(右決議)

萬國平和會議最終決議書並ニ之ニ附屬スル該會議議定ノ三條約三宣言書ニ帝國全權委員ヲシテ記名調印セシムルノ件ハ請議ノ通閣議決定相成候條此段及御通牒候也

明治三十二年十二月七日

内閣總理大臣侯爵 山県有朋(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

耳義國露國ヨリモ之ヲ承諾スベキ旨内々通知アリタル趣ニ候間此旨申添候

一六二 明治三十二年十二月六日

青木外務大臣ヨリ  
山県總理大臣宛

「ジュネーブ」條約第十條適用留保付調印ノ米  
國申出ヲ承認方申請ノ件並ニ決議

明治卅三年十二月十八日發遣

機密送第二六四号

内閣總理大臣

外務大臣

萬國平和會議々決ノ三條約中「ジュネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニ對シ英國ガ保留付記名ヲ為スヲ承諾スルノ件ニ付議ニ閣議ニ提出ノ次第有之候処北米合衆國モ亦英國同様ノ保留ヲ以テ該條約ニ記名致度旨希望候趣ヲ以テ英國ノ分ト併セ折返シ電訓アリ度旨白國駐在本野公使ヨリ請訓致來候間前議ト併セ至急閣議決定相成度此段申進候也

追テ英國ノ保留ニハ諸國殆下皆承諾ヲ与ヘタル趣電報有之候條此旨申添候

一六一 明治三十二年十二月三日

青木外務大臣ヨリ  
山県總理大臣宛

「ジュネーブ」條約第十條適用留保付調印ノ英  
國申出ヲ承認方申請ノ件

明治三十二年十二月十三日發遣

機密送第二五六号

内閣總理大臣

外務大臣

萬國平和會議議定ノ條約中千八百六十四年八月二十二日「ジュネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニ對シテハ英國全權委員ハソノ第十條ガ自國法律ニ抵触スルノ故ヲ以テ記名不致旨彙ニ申進置候処當時英國全權委員ハ該條約第十條ニ関シテ保留ヲ為スニ於テハ之ニ記名スルコトヲ得ベシト言明シタルモ右保留付記名ハ平和會議參列諸國ノ承諾ヲ要スル義ニ有之然ルニ第十條ハ緊要ナル條項ニモ非ズ且各參列國悉ク該條約ニ記名スルコト望マシキヲ以テ帝國政府ニ於テ英國ノ保留ヲ承諾アリ度旨和蘭國外務大臣ヨリ請求アリタル趣白耳義國駐本野公使ヨリ電報致來候間右承諾ノ義閣議ニ於テ至急決定相成候様御取計有之度此段申進候也

追テ瑞典、瓊、仏、葡ノ諸國ハ既ニ該保留ヲ承諾シ又白

(右決議)

内閣送第三五号

萬國平和會議議定條約中「ジュネヴァ」條約第十條ヲ海戦ニ応用スル儀ニ関シ英國並米國ノ保留申出ヲ承諾スルノ件ハ請議ノ通閣議決定相成候間此段及御通牒候也

明治三十二年十二月十八日

内閣總理大臣侯爵 山県有朋(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一六三 明治三十二年十二月十五日

白國駐本野公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬國平和條約ニ對スル英米兩國ノ留保付調印ヲ  
我政府承諾ノ旨蘭國政府ヘ通達済ノ件

機密第十五号

本件ニ関シテハ彙ニ十一月六日第一八号電報並ニ同月七日附機密第一一号信ヲ以テ巨細申進候次第有之候処其後ニ至リ蘭國外務大臣ヨリ右英國ノ留保ニ関スル帝國政府ノ回答ヲ促シ候ト同時ニ北米合衆國モ亦英國ト同様ノ留保ヲ以テジュネーブ條約ニ調印シ度旨申出タル趣別紙甲号写ノ書面

ヲ以テ通報致来候ニ付本月十五日發第二四号電報ヲ以テ右及報告併テ右留保ニ対スル帝國政府ノ意向相伺候処本月十八日接受第一七号電報ヲ以テ右兩國ノ留保ニ対スル帝國政府ノ承諾御訓示相成候ニ付本使ハ別紙乙号寫ノ書面ヲ以テ蘭国外務大臣ヘ右ノ旨申進シ置候間此段及報告候敬具

明治三十二年十二月卅三日

在白耳義 特命全權公使 本野一郎(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

註 電報及別紙附屬書省略

一六四 明治三十二年十二月三十一日

白国駐劄本野公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和條約調印済ノ件

機密第一六号

本月十日接受第一四号電報ヲ以テ蘭国海牙府開会ノ列国平和會議ニ於テ決議シタル三條約三宣言ニ調印可致旨御訓示相成候ニ付本使ハ豫メ同国外務大臣ト右ニ関スル必要ナル打合ヲ遂ケタル上本月十九日同府ニ出張シ其翌二十日無滞

明治三十二年十二月廿五日

在白耳義 特命全權公使 本野一郎(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一六五 明治三十二年十二月二十六日

独国駐劄井上公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和條約ノ調印ニ関スル独乙側意向通達ノ件

公第四百四十一号

本年七月二十九日ノ萬国平和會議終決議定書ニ関シテハ当独獨國ニ於テモ他ノ諸國同様其當時既ニ調印ヲ了シ候ヘ共同會議ニ於テ議定シタル三箇ノ約定書及三箇ノ宣言書ニ関シテハ当國ニ於テ未ダ之カ調印ヲナスノ運ニ立チ到リ不居候処其後右約定書及宣言書ハ当國聯邦政府ノ査閲ヲ経タル上今度愈々本年中ニ之カ調印ヲ了スルコトニ決定シ平和會議ニ於ケル第一委員タリシ在仏当國全權大使「ミユンスター」公ヲシテ蘭都ニ趣カシメ右約定書及宣言書ニ調印セシムルコトニ相成候尤モ「ジュネーヴ」條約ヲ海戦ニ適用スルコトニ関スル約定書中第十條ノ規定ニ付テハ當國ニ於テモ英國同様ノ留保ヲナスベキ筈ニ有之候旨本日半官報

全成約ノ調印ヲ了ヘ候

右調印ノ当日ニ於テ猶ホ調印未済ノ列國ハ清、波其斯、瑞西、英吉利、北米合衆國、独逸、希臘ノ七ヶ國ニ有之候而シテ蘭国外務大臣ノ談話ニ依レハ右等ノ諸國モ早晚調印ヲ了ヘ候内意ヲ通シ居候ニ付調印期限則本年末日迄ニハ全成約無漏調印ニ可至模様ニ有之候而シテ右調印完済ノ上ハ蘭國政府ハ諸條約並ニ宣言書寫ヲ各國駐劄ノ蘭國公使ヨリ其政府ヘ相届ケ可申旨是亦同大臣ヨリ内話有之候成約ノ批准期ニ関シテモ亦本使ハ談話ノ序ヲ以テ蘭国外務大臣ノ意向ヲ探リ候処同國政府ニ於テハ該成約ニ対シ批准前ニ兩院ノ協賛ヲ經サルヲ得サルガ故ニ明年四月ノ交ニアラテハ批准ノ運ニ立至間敷隨テ各國政府ヘハ蘭國ノ批准相落候上批准督促ノ回章ヲ送附可致由ニ御座候各國ノ批准書ハ蘭國政府ニ於テ保存ス可キ規定ニ相成居候ニ付各國政府ハ其批准書ヲ蘭國政府ニ送附シ蘭國政府ハ之ニ対シテ其領收書ヲ与フルニ止マリ別ニ列國間ニ批准書ヲ交換スルノ必要ハ無之旨外務大臣ヨリ談話有之候ニ付是亦為念申進置候

右成約調印ノ始末及報告候敬具

明治三十二年十二月二十八日

在独 特命全權公使 井上勝之助(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一六六 明治三十二年十二月三十一日

白国駐劄本野公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和條約調印ニ関シ独土兩國ノ留保付要請通達ノ件

機密第十九号

土耳其政府及独逸政府ハ列國平和會議ニ於テ決議シタルジュネーヴ條約ノ海戦適用ニ関スル條約第十條ニ対シ曩ニ英米兩國ガ為シタル同様ノ留保ヲナシテ調印致度旨蘭国外務大臣ヘ申出候趣ニテ右ノ趣本使ヨリ帝國政府ヘ通知致具候様本月廿七日及廿八日兩日時電報ヲ以テ同大臣ヨリ報導致来候間可然御承知相成度此段及報告候敬具

明治三十二年十二月廿九日

在白 特命全權公使 本野一郎(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一六七 明治三十三年一月四日 蘭国駐劄珍田弁理公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和條約各國調印状況報告ノ件

## 機密第四号

平和會議ノ議決諸案ニ対スル記名ノ期ハ客歲十二月三十一日ヲ以テ定限ト相定候処該會議閉会ノ際記名ヲ了セザル邦國中帝國及埃太利、伊太利、リュクセンブルグ、セルビヤ等ノ諸国カ客月二十日前後マテニ夫々記名ノ運ニ至リタルハ隨時電信具報ノ通ニ有之猶独逸、北米合衆国、清国、瑞西及土耳其ノ五国ヲ余居候処客臘末ニ至リ是等諸国モ各々記名ヲ了シ候ニ付キ本年一月三日附電報ノ通り及御報告候

右ニテ平和會議參列諸国ハ同會議議決ノ條約及宣言書ニ対シ一部除外又ハ留保條件ヲ附シタル者アルニ拘ラズ孰レモ所定期日マテニ悉皆記名ヲ了シ、茲ニ該會議ノ成績ヲ完結シタル次第ニ有之候左ニ參列各國記名ノ体様ニ關スル別紙總括一覽表ヲ調製シ御参照ノ便ニ供候

記名手續ニ關シ北米合衆国ヲ除クノ外參列各國ハ何レモ所定ノ期日迄ニ海牙ニ於テ記名ヲ了シタルモ独リ同国ハ右期日迄ニ海牙ニ委員ヲ派遣スルニ至ラズシテ華聖頓ニ於テ其

一六八 明治三十三年一月十六日 蘭国駐劄珍田公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和條約調印状況ニ關シ蘭国政府ノ通知  
進達ノ件

附屬書 一月十三日付蘭国外務大臣書翰  
條約調印一覽表其他送致ノ件

## 機密第九号

平和會議參列諸国ガ同會議ノ議決諸案ニ記名ノ状況ニ付、本月四日付機密第四号ヲ以テ御報告及置候処、本件ニ關シ当国政府ニ於テ各國ノ記名有無、宣言若クハ留保等ヲ詳記セル表ヲ製シ、該會議議事録ヲ添ヘ帝國政府ヘ伝達方別紙公東写ノ通り当外務大臣ヨリ申越候、且ツ瑞西国委員ハ第二條約ノ記名ヲ否ミ、右ニ關スル覺書ヲ提出シ參同列国ヘ通達万依頼セル旨前記公東ヲ以テ同大臣ヨリ通知致来候、右覺書中ニ記述セル宣言ノ要旨ハ即チ千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於ケル萬国平和會議ノ協定シタル陸戰例規ニ關スル條約ハ自国防衛ノ目的ヲ以テ兵器ヲ孰ルベキ人民ノ權利ヲモ制限スル規定ヲ包含スルモノニシテ、瑞西国人民ノ感想及素論ト相牴觸スルモノナルヲ以テ瑞西聯邦政府ハ同條約書ニ記名スルコト能ハズトノ点ニ在ルカ如シ、猶詳

手續ヲ了シタルハ一異例タルノ觀アリタルモ專ラ有効ノ記名ト承認セラレタル趣ニ有之候

留保條約中、條約第一ニ対スル北米合衆国、ルーマニヤ、セルビヤ及土耳其ノ留保條件ハ御承知ノ通り國際干涉ヲ加ヘ又ハ國際干涉ニ陥ルノ行為ヲ避ケンコトヲ希望スルノ宣言ニシテ、條約第三ニ対シ其ノ第拾條ヲ除外シテ記名セントノ英國政府ノ提議ニ關シテハ和蘭國政府ハ各參列國政府ニ照会シテ其ノ諾否如何ヲ求メタルニ何レモ異議ナキ旨ノ回答ヲ得、独逸、北米合衆国、土耳其ノ三国モ亦英國同様ノ條件ヲ以テ同約定ニ記名ヲ了シ又清、瑞（西）ノ二國ガ第二條約ニ対シ記名ヲ否ミタルハ稍人意ヲ惹ク所ナルガ其理由トセル点ハ本國ノ國勢上該條約ノ必要ヲ認メズト云フニ在リタル由、其ノ他北米合衆国、英國、葡萄牙及ルーマニヤ諸國ガ宣言書ニ記名セザルコトハ別表提出ノ通りニ有之候

右及具報候 敬具

明治三十三年一月四日

在和蘭 弁理公使 珍田捨巳（印）

外務大臣子爵 青木周藏殿

細ハ前記公東ニ就キ御知悉相成度候將又前陳一覽表ハ爰ニ及御封送候間御落手相成度、議事録ノ議ハ製本出来ノ上數部請受度旨兼而當外務省ヘ申出置候次第モ有之候間全部領收ノ上ニテ御転送ニ可及候  
右及具申候 敬具

明治三十三年一月十六日

在和蘭 弁理公使 珍田捨巳（印）

外務大臣子爵 青木周藏殿

## （附屬書）

一月十三日付蘭国外務大臣來翰（訳文）

萬国平和條約調印一覽表其他送致ノ件

和蘭外務大臣 ド・ボーフオール

日本國皇帝陛下ノ弁理公使 珍田捨巳貴下

以書翰致啓上候陳ハ萬国平和會議最終決議書ヲ以テ千八百九十九年七月二十九日ノ條約及宣言書ニ記名ノ為ニ定メタル期限ハ去ル十二月三十一日ヲ以テ終リタルニ依リ左ノ書類及御送附候間一部ハ貴公使館用トシ他ノ一部ハ貴國政府ヘ御転送相成度候

第一 記名シタル諸國並ニ其ノ保留ヲ示ス一覽表 二部

第二 平和會議總會議事録

但最終決議書條約書並ニ宣言書共

二部

瑞西聯邦政府ノ全權委員ハ唯タ一箇ヲ除クノ外総テノ條約及宣言書ニ記名相成候該全權委員ハ記名ノ際十二月二十八日附口上書ヲ以テ平和會議ニ代表者ヲ派遣セラレタル諸国政府ニ左ノ如キ宣言ヲ通知セシコトヲ本大臣ニ依頼有之候

千八百九十九年七月二十九日海牙萬国平和會議ニ於テ協定シタル陸戰例規ニ関スル規則ハ自国防禦ノ為ニ兵器ヲ執ルヘキ人民ノ權利ヲ制限スル規定ヲ包含シ右規定ハ瑞西聯邦人民ノ感情ト古來ノ慣習ニ抵触スルノ故ヲ以テ瑞西聯邦政府ハ右協定ニ記名スル能ハス

貴国政府ニ於テモ記名セラレタル千八百九十九年七月二十九日協定ノ書類ニ関スル認證謄本一部並ニ總會及委員會會議事録ノ御希望部数ハ出来次第可及御送付候右御通知旁本大臣ハ茲ニ貴下向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百年一月十三日海牙ニ於テ



此提議ニシテ各国政府ノ同意ヲ得ルニ至ラハ諸條約批准ノ点ニ於テモ困難ナカルヘキニ附日本政府ニ於テモ本提議ニ

同意相成候様致度旨本使ヨリ閣下迄申通候様依頼致来候且又本件ニ付テハ蘭国政府ヨリ露国政府ノ内意ヲ問合セタルニ同国政府ニ於テハ全然同意ヲ表シ候旨申添来候就テハ之ニ対スル帝国政府ノ意見御確定ノ上ハ何分ノ義御申越相成候様致度此段別紙同大臣書簡相添茲ニ及稟申候 敬具

明治三十三年一月三十日

在日 特命全權公使 本野一郎(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

△(網外註記)

「ゴ」意味ハ前記四ヶ国以外ノ国ニシテソノ国内法ト第十條ト相容レサル国尙有之ヲ以テ之等ノ国ニ於テハ前記條約ヲ議會ニ付シタル時反對モ起リ批准上ニ困難ヲ生スルニヨリ第十條ヲ削除セハ此困難ヲ除クトノ意味ナリ  
阿部

(附屬書)

一月二十三日付蘭国外務大臣來翰

「ジュネーブ」條約原則適用ノ條約ニ対スル独英米土ノ態度ニツキ通達並ニ條約第十條削除ニ関スル件

一六九 明治三十三年一月三日 白国駐劄本野公使ヨリ 青木外務大臣宛

「ジュネーブ」條約原則適用ノ條約改訂ニ関シ通知ノ件

附屬書

一月二十三日付蘭国外務大臣來翰

「ジュネーブ」條約原則適用ノ條約ニ対スル独英米土ノ態度ニツキ通達並ニ條約第十條削除ニ関スル件

機密第貳号

三月十九日接受

ジュネーブ條約ノ原則ヲ海戰ニ適用スヘキ條約第十條ニ関シ独、米、英、土四ヶ国留保ノ件

本件ニ関シテハ明治三十二年十二月廿五日附機密第一六号及同年同月廿九日付機密第一九号ヲ以テ既ニ及報告置候次第有之候処和蘭国外務大臣ハ本月廿三日附書簡ヲ以テ更ニ左ノ通り提議致来候

獨、米、英、土四ヶ国ハ千八百六十四年八月廿二日ノジュネーブ條約ノ原則ヲ海戰ニ通用スベキ條約ニ関シ其第十條ヲ留保シテ之ニ調印シタルニ付テハ之カ為メニ各締盟国ニ対シ右條約ヨリ生ズル同一義務ヲ負ハシムルコト能ハサル結果ヲ生候就テハ和蘭国政府ノ考ニテハ寧ロ右條約批准ノ際同第十條ヲ條約中ヨリ削除スル方至当ナルベク且ツ若シ

和蘭国皇帝陛下ノ外務大臣

ド・ボーフォーール

白耳義国駐劄

日本国皇帝陛下ノ特命全權公使 本野一郎貴下

以書翰致啓上候陳ハ独逸北米合衆国大不利顯及土耳其ノ諸国ハ締盟諸国ノ承諾ヲ得テ其ノ第十條ニ関スル保留ヲ為シタル上ニテ千八百六十四年八月二十二日「ジュネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル條約ニ記名相成候

萬国平和會議ノ第二調査委員ニ於テ一票ノ多数ヲ以テ採用シタル第十條ニハ「中立国地方官庁ノ承諾ヲ得テ其ノ一港ニ上陸シタル難船者負傷者又ハ病者ハ中立国ト交戦国トノ間ニ反對ノ取極ナキ限りハ再ヒ戦闘ニ從事スルコト能ハサラシムル為メ中立国ニ於テ之ヲ抑留スヘシ」ト規定有之候

前頭四カ国ニ於テ承諾スルコト能ハスト思考スル右ノ義務ハ殊ニ大不列顛国ニ関スル場合ニ於ケルカ如ク或ル他ノ諸国ニ於テモ亦其ノ法令ニ抵触スルモノアルヘク隨テ該諸国ニ於テ本件ヲ議スルニ当リ立法院ノ反對ニ遭遇スルコトアルモ保シ難シ

右ノ如キ実況ニシテ且又締盟諸国ニ対シ前記ノ條約ヨリ生

スル諸義務ヲシテ均一ナラシムルノ必要アルニモ拘ハラス右四カ国ノ締盟國ニ於テ為シタル保留ハ此ノ均一ヲ欠クヘキモノニモ有之候間和蘭國皇帝陛下ノ政府ハ右第十條ノ利益ハ第二位ニ屬スルモノナルニ依リ批准ノ際之ヲ削除スル方可然ト思考致シ候

右ノ提議ニシテ採用セラルハニ至ラハ右條約ヲ批准スルニ當リ締盟諸國ニ於テ其ノ内部ノ困難ニ遭遇スルコトナカルヘク随テ最トモ吾々ノ希望スルカ如ク短キ期限内ニ各國ノ批准ヲ終ヘルニ至ルヘシト存候又露西亜帝國政府ニ於テモ右第十條廢止ニ就テハ全ク我政府ト意見ヲ同フスルコトヲ茲ニ貴下ニ報道スルヲ得ルハ本大臣ノ幸トスル所ニ有之候

依テ貴下ヨリ右ノ趣日本國政府ヘ御通牒相成且成ルヘク速ニ本件ニ關スル同政府ノ御意見本大臣ニ御報知有之様希望致候右御依頼旁々本大臣ハ茲ニ貴下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百年一月二十三日海牙ニ於テ

(右決裁)

内閣送第一九号

萬國平和會議議定ノ條約中「ジュネヱヴ」條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル條約第十條削除ニ關スル和蘭國ノ提議ヲ承諾スルノ件ハ請議ノ通閣議決定相成候間此段及御通牒候也

明治三十三年四月十日

内閣總理大臣侯爵 山県有朋(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一七一 明治三十三年五月三日

白国駐劄本野公使ヨリ  
青木外務大臣宛

「ジュネヱヴ」條約ノ原則ヲ海戰ニ適用スベキ條約第十條削除批准ニ關スル件

附屬書

四月廿日付和蘭國外務大臣來翰

條約第十條削除批准ニ關スル件

機密第十号

六月七日接受

本件ニ關シテハ既ニ本年一月卅日附機密第二号ヲ以テ及稟申候次第有之候処右ニ付キ今回更ニ和蘭國外務大臣ヨリ四月廿日附書翰ヲ以テ左ノ申出有之候様キニ和蘭國政府ヨリ

一七〇 明治三十三年三月二十六日 青木外務大臣ヨリ  
山県總理大臣宛

「ジュネヱヴ」條約ノ原則ヲ海戰ニ適用スベキ條約第十條削除ニ關シ請議ノ件竝ニ決裁

明治卅三年三月廿六日發遣

機密送第四八号

内閣總理大臣

外務大臣

萬國平和會議議定ノ條約中千八百六十四年八月二十二日「ジュネヱヴ」條約ノ原則ヲ海戰ニ適用スル條約ニ對シテ独、米、英、土四カ国ハ其第十條ヲ保留シテ記名致候為メ右條約ヨリ生スル各締盟國ノ義務同一ナルコト能ハサル結果ヲ生シ候ニ付テハ和蘭國政府ノ意見ニテハ寧ロ右條約批准ノ際第十條ヲ削除スル方適當ナルヘク且ツ若シ此提議ニシテ各國政府ノ同意ヲ得ルニ至ラハ該條約批准ノ点ニ於テモ便益ナルヘキニ付帝國政府ニ於テモ本提議ニ同意相成候様致度旨和蘭國外務大臣ヨリ請求有之タル趣白耳義國駐劄本野特命全權公使ヨリ申越候間右承諾ノ義閣議ニ於テ至急決定相成候様御取計有之度此段申進候也

追テ本件ニ付テハ蘭國政府ヨリ露國政府ノ内意ヲ問合セタルニ同國政府ニ於テハ全然同意ヲ表シ候趣ニ有之候間此段申添候

提出シタル「ジュネヱヴ」條約ノ原則ヲ海戰ニ適用スベキ條約第十條ヲ批准ノ際削除スベキ發議ハ調印國ノ多数ニ於テ同意ヲ表シ居ル所ニ有之候処右ニ關シ尙露國政府ヨリ左ノ方法ヲ提議セリ即右條約各條ノ番号ハ之ヲ從來ノ儘ト為シ其第十條ニハ「削除」ナル文字ヲ附シ右條約ノ全文ヲ批准書ニ附記スヘシトノ提議ニ有之候而テ右ノ趣ハ本使ヨリ帝國政府ニ通知致シ可成速ニ回答ヲ得度旨依頼致來候ニ付別紙和蘭國外務大臣書翰寫及御送附候間詳細ノ義ハ右ニ付御一覽ノ上可相成至急何分ノ義御回訓相成度右申進候 敬具

明治三十三年五月三日

在白 特命全權公使 本野一郎(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

(附屬書)

(写反訳)

和蘭國外務大臣

ダブリユ・エツチ・ド・ボーフォルト

在白耳義國 本野公使貴下

以書翰致啓上候陳ハ和蘭國政府ハ國際紛争平和の處理條約

第二十八條及第五十八條ノ精神ニ準拠セムコトヲ希望スルニ依リ該條約批准書送付ノ件ヲ平和會議ノ書類ニ記名シタル諸國ニ勸誘スルハ本大臣ノ義務ナルヘシト思考致シ候常設仲裁裁判所事務局ノ設立及構成ニハ可成多數ノ記名國カ協力セラレンコトヲ希望スルニ依テ五月十五日マテ右批准書ノ送付ヲ見合セラレンコトヲ茲ニ及提議候千九百年一月二十九日附本大臣ノ回章 (No 1109 Direction du Protocol) ニ掲載シ「ジ・ネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル條約第十條ヲ批准ニ加ヘサル傾向ヲ有スル和蘭國政府ノ提議ハ今日マテニ各々其ノ所見ヲ吐露シタル諸國ノ贊成ヲ得而シテ此ノ贊成諸國ハ右記名ノ大部分ヲ占メ居リ候ニ付他ノ關係諸國ニ於テハ多分和蘭國政府ノ提議ヲ採用スヘクト被存候間批准書ノ送付ヲ迅速ナラシメムカ為メ右第十條ノ削除ニ関シ今ヨリ一定ノ方法ヲ設定スルノ必要可有之ト存候本件ニ関シ露國政府ハ批准書ニ右條約書ノ謄本ヲ添付シ其ノ第十條ノ本文ニ代ユルニ「削除」ナル語ヲ以テシ而シテ各條ノ番号ハ現今ノ儘ニナシ置クト云フ方法ヲ提議相成候右ノ方法ニ基キテ調製シタル謄本ハ之ヲ請求スル國ノ政府ニ通送可致候右之趣貴下ヨリ日本國政府ヘ御通知ノ上成

明治三十三年五月十八日

在白耳義國 特命全權公使 本野一郎(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

一七三 明治三十三年七月三十五日

白國駐劄本野公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬國平和會議三條約三宣言批准ニ関シ和蘭國外務大臣ヨリ通告伝達ノ件

附屬書一 七月十八日付蘭國外務大臣來翰(一)

奥國以下十ヶ國批准済ニツキ日本ノ批准促進方依頼ノ件

二 同右來翰(二)

平和條約批准書ヲ九月四日迄ニ寄托方依頼ノ件

三 平和條約批准済列國一覽表

公第三八号

和蘭國外務大臣ド、ボーフォート氏ハ本月十八日付書面(別紙甲号)ヲ以テ今般填洪國、西班牙、北米合衆國、仏蘭西、英吉利、伊太利、留馬尼、露西亞、和蘭、暹羅ノ十ヶ國仲裁條約ノ批准ヲ遂ケタルニ就テハ同條約第五十八條及

ルヘク速ニ右ニ提議ノ贊否ニ関シ何分ノ御回答相成候様希望致候右御依頼旁本大臣ハ茲ニ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

千九百年四月二十日海牙ニ於テ

一七二 明治三十三年五月六日

白國駐劄本野公使ヨリ  
青木外務大臣宛

仲裁裁判條約ノ批准書提出ニ関スル件

機密第一号

六月廿六日接受

和蘭國外務大臣ド、ボーフォート氏ハ客月二十日付書面ヲ以テ列國平和會議ノ成約中列國仲裁條約ノ批准ニ関シテハ常設仲裁法廷中央事務局ノ設立及組織ニ對シ可成多數ノ訂盟國ヲ参加セシムル必要アルヲ以テ右批准ヲ本年五月中旬以前ニ提出セザル様致度旨ヲ提議致候ニ付茲ニ本月三日付機密第十号信ヲ以テ右書面ヲ相添ヘ申進置候処其後ニ至リ右提議ノ要旨ハ可成速ニ帝國政府ニ伝達致具候様同外務大臣ヨリ珍田在蘭公使ヘ依頼致候旨承知致候ニ付則本月十四日第八号電報ヲ以テ及報告候次第ニ御座候右不取敢申進候敬具

第二十八條ノ規定ニ基キ速ニ常設行政委員會ヲ組織スル必要有之ニ付右條約ノ批准提出ヲ来ル九月四日ト定メタルヲ以テ帝國政府ニ於テモ同期日ニ右ノ批准ヲ提出セラレ常設行政委員會ノ組織ニ参加セラレ候様致度旨ヲ申來候將又同日附同外務大臣ヨリ同條約批准済ノ各國代表者ニ宛タル書面(別紙乙号)ニ由レバ右仲裁條約ノ外三條約三宣言ノ批准モ同時ニ提出スルヲ得ル都合ニテ為參考批准済列國ノ一覽表(別紙丙号)ヲ附シ居候

右ノ要領ハ本月廿三日發第二〇号電報ヲ以テ不取敢及報告置候得共猶茲ニ別紙相添ヘ及詳報候敬具

明治三十三年七月二十五日

在白耳義 特命全權公使 本野一郎(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

(附屬書一)

甲号 七月十八日付蘭國外務大臣來翰

奥國以下十ヶ國調印批准済ニツキ日本ノ批准促進方依頼ノ件

Copie

La Haye, le 18 juillet 1900.

MINISTÈRE  
DES

AFFAIRES ÉTRANGÈRES.

DIRECTION du Protocole  
No. 7064.

Annexes.

Monsieur le

D'après l'art 58 de la Convention pour le règlement pacifique des Conflits internationaux cet acte sera ratifié dans le plus bref délai possible, tandis que l'une des clauses de son art 28 stipule que le plus tôt possible après la ratification par neuf Puissances au moins, il sera constitué un Conseil administratif permanent.

L'Autriche-Hongrie, l'Espagne, les Etats Unis d'Amérique, la France, la Grande-Bretagne, l'Italie, les Pays-Bas, la Roumanie, la Russie et le Siam, c'est à dire le nombre d'Etats prévus par le dernier des articles cités, n'ayant transmis leurs actes de ratification, je crois de mon devoir, Monsieur le de Vous convier, avec les représentants des Autres Etats précités, pour procéder au dépôt des dites ratifications le 4 septembre prochain.

Les ratifications des autres conventions et déclarations, signées à la Conférence de la Paix, pouvant être déposées simultanément avec celles de la Convention sur l'arbitrage, Vous voudrez trouver pour Votre gouvernement sous ce pli un tableau en sur lequel ont été soulignées en bleu, les actes dont les ratifications me sont parvenues jusqu'à ce jour.

Après que les dépôts seront effectués le jour de la Constitution du Conseil pourra être fixé.

Il sera superflu de Vous rappeler qu'aux termes de l'article 28 ce Conseil sera composé des représentants diplomatiques des Puissances signataires accrédités à la Haye et du Ministre des Affaires Étrangères des Pays-Bas, qui remplira les fonctions de Président.

En me proposant, Monsieur le de Vous faire connaître ultérieurement le lieu et l'heure de la réunion du 4 septembre, je saisis cette occasion pour Vous renouveler l'assurance de ma haute considération.

Ult de Beaufort.

Monsieur  
Envoyé Extraordinaire et Ministre Plénipotentiaire  
de

(註) 閣下

七月十八日付 蘭国外務大臣 ムニッ各国代表宛

蘭国平和條約批准書ヲ九月四日 ヲニニ提出方

依頼ノ件

Légation du Japon  
Bruxelles

Copie

La Haye, le 18 juillet 1900.

Monsieur le Ministre,

Pour faire suite à ma circulaire du 20 avril dr. N° 4,209, Direction du Protocole, j'ai l'honneur de Vous faire parvenir sous ce pli copie, avec son annexe, en double, d'une lettre circulaire, N° 7864 Direction du Protocole, que j'adresse sous la date de ce jour aux représentants des Etats qui m'ont transmis les actes de ratification de la Convention pour le règlement pacifique des conflits internationaux, en vue de convier ces repré-

sentants au dépôt des ratifications précitées, le 4 septembre prochain.

Je Vous prie, Monsieur le Ministre, de bien vouloir porter le contenu des annexes de la présente à la connaissance du Gouvernement Japonais, en lui exprimant le voeu du Cabinet de la Haye qu'il sera à même de faire déposer sa ratification de la Convention sur l'arbitrage dans un délai assez rapproché pour pouvoir participer de son côté, à la constitution du Conseil administratif permanent.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, l'assurance renouvelée de ma haute considération.

(signé) Ult de Beaufort.

Monsieur Motono,  
Envoyé Extraordinaire et Ministre  
Plénipotentiaire de Sa Majesté  
l'Empereur du Japon,  
à Bruxelles.

(註) 閣下

蘭国平和條約批准書列國ニ呈表

Conférence Internationale de la Paix.

TABLEAU DES SIGNATURES

apposées jusqu'au 31 décembre 1899 aux Convention et Déclarations du 29 juillet 1899, savoir :

第十三號 平和條約ノ調印結果 一 中

六四六

|                             | I.<br>La Convention pour le règlement pacifique des conflits internationaux. | II.<br>La Convention concernant les lois et coutumes de la guerre sur terre. | III.<br>La Convention pour l'adaptation à la guerre maritime des principes de la Convention de Genève du 22 avril 1864. | IV 1°.<br>La Déclaration concernant l'interdiction de lancer des projectiles et des explosifs du haut de ballons ou par d'autres modes analogues nouveaux. | IV 2°.<br>La Déclaration concernant l'interdiction de l'emploi des projectiles qui ont pour but unique de répandre des gaz asphyxiants ou délétères. | IV 3°.<br>La Déclaration concernant l'interdiction de l'emploi de balles qui s'épanouissent ou s'aplatissent facilement dans le corps humain, etc. |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Allemagne.                  | s                                                                            | s                                                                            | s                                                                                                                       | s                                                                                                                                                          | s                                                                                                                                                    | s                                                                                                                                                  |
| Autriche-Hongrie.           | s                                                                            | s                                                                            | s                                                                                                                       | s                                                                                                                                                          | s                                                                                                                                                    | s                                                                                                                                                  |
| Belgique.                   | s                                                                            | s                                                                            | s                                                                                                                       | s                                                                                                                                                          | s                                                                                                                                                    | s                                                                                                                                                  |
| Chine.                      | s                                                                            | s                                                                            | s                                                                                                                       | s                                                                                                                                                          | s                                                                                                                                                    | s                                                                                                                                                  |
| Danemark.                   | s                                                                            | s                                                                            | s                                                                                                                       | s                                                                                                                                                          | s                                                                                                                                                    | s                                                                                                                                                  |
| Espagne.                    | s                                                                            | s                                                                            | s                                                                                                                       | s                                                                                                                                                          | s                                                                                                                                                    | s                                                                                                                                                  |
| Etats Unis d'Amérique.      | s                                                                            | s                                                                            | s                                                                                                                       | s                                                                                                                                                          | s                                                                                                                                                    | s                                                                                                                                                  |
| (Première Partie, page 93.) |                                                                              |                                                                              |                                                                                                                         |                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                    |

|                                                                                                                                                                                                                              |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| Etats Unis Mexicains.                                                                                                                                                                                                        | s | s | s | s | s | s |
| France.                                                                                                                                                                                                                      | s | s | s | s | s | s |
| Grande Bretagne.                                                                                                                                                                                                             | s | s | s | s | s | s |
| Grèce.                                                                                                                                                                                                                       | s | s | s | s | s | s |
| Italie.                                                                                                                                                                                                                      | s | s | s | s | s | s |
| Japon.                                                                                                                                                                                                                       | s | s | s | s | s | s |
| Luxembourg.                                                                                                                                                                                                                  | s | s | s | s | s | s |
| Monténégro.                                                                                                                                                                                                                  | s | s | s | s | s | s |
| Pays-Bas.                                                                                                                                                                                                                    | s | s | s | s | s | s |
| Perse.                                                                                                                                                                                                                       | s | s | s | s | s | s |
| Portugal.                                                                                                                                                                                                                    | s | s | s | s | s | s |
| Roumanie.                                                                                                                                                                                                                    | s | s | s | s | s | s |
| (Quatrième Partie, page 64 et 65.)                                                                                                                                                                                           |   |   |   |   |   |   |
| sous les réserves, formulées aux art. 16, 17 et 19 de la présente Convention (15, 16 et 18 du projet présenté par le Comité d'examen) et consignées au procès-verbal de la séance de la 3ième Commission du 20 juillet 1899. |   |   |   |   |   |   |

|                                       |                                                                                                                                                                                                               |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|
| Russie.                               | s                                                                                                                                                                                                             | s | s | s | s | s |
| Serbie.                               | $\left\{ \begin{array}{l} \text{sous les réserves} \\ \text{consignées au pro-} \\ \text{cès-verbal de la 3i-} \\ \text{ème Commission du} \\ \text{20 juillet 1899.} \end{array} \right.$                    |   |   |   |   |   |
|                                       | <i>(Quatrième Partie, page 63.)</i>                                                                                                                                                                           |   |   |   |   |   |
| Siam.                                 | s                                                                                                                                                                                                             | s | s | s | s | s |
| Royaumes Unis de Suède et de Norvège. | s                                                                                                                                                                                                             | s | s | s | s | s |
| Suisse.                               | s                                                                                                                                                                                                             | s | s | s | s | s |
| Turquie.                              | $\left\{ \begin{array}{l} \text{sous réserve de la} \\ \text{Déclaration faite} \\ \text{dans la séance plé-} \\ \text{nière de la Confé-} \\ \text{rence du 25 juillet} \\ \text{1899.} \end{array} \right.$ |   |   |   |   |   |
|                                       | <i>(Première Partie, Page 94.)</i>                                                                                                                                                                            |   |   |   |   |   |
| Bulgarie.                             | s                                                                                                                                                                                                             | s | s | s | s | s |

一七四 明治三十三年八月三日 青木外務大臣ヨリ  
山県総理大臣宛

海牙平和會議三條約三宣言書御批准奏請ノ件竝  
ニ決裁

附屬書一 上奏案

二 御批准案

附記 右決裁

明治卅三年八月三日發遣

機密送第一二八号

山県内閣総理大臣

青木外務大臣

昨明治三十二年七月二十九日和蘭国海牙府ニ於テ萬国平和  
會議ニ贊同シタル帝国全権委員ト各国全権委員トノ間ニ協  
議決定シ記名調印シタル國際紛争平和的處理、陸戰ノ法規  
慣例ニ関スル條約、千八百六十四年八月二十二日「ジェネ  
ヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル條約、輕気球上ヨリ又  
ハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法ニ依リ投射物及爆裂物ヲ  
投下スルヲ禁止スル宣言、窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質  
ノ瓦斯ヲ散希スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁  
止スル宣言并ニ外包硬固ナル彈丸ニシテ其ノ外包中心ノ全  
部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノ、如キ人  
体内ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平ト為ルヘキ彈丸ノ使用ヲ

禁止スル宣言御批准ノ義ニ付別紙ノ通致上奏候間可然御取  
計相成度比段申進候也

追而本文御批准書ハ本月中ニ發送ヲ要シ候間右御舍ノ上  
可然御取計相成度為念申添候

(附屬書一)

上奏案

萬国平和會議ニ贊同シタル帝国ト各国トノ間ニ協議決定シ  
タル國際紛争平和的處理條約、陸戰ノ法規慣例ニ関スル條  
約、千八百六十四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約ノ原  
則ヲ海戰ニ応用スル條約、輕気球上ヨリ又ハ之ニ類似シタ  
ル新ナル他ノ方法ニ依リ投射物及爆裂物ヲ投下スルヲ禁止  
スル宣言、窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布ス  
ルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁止スル宣言竝ニ外  
包硬固ナル彈丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若  
ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノ、如キ人体内ニ入テ容易  
ニ開展シ又ハ扁平ト為ルヘキ彈丸ノ使用ヲ禁止スル宣言、  
御批准相成候様仕度別紙御批准案相添比段謹テ奏ス

明治三十三年 月 日

外務大臣子爵 青木 周藏

(附屬書二)

御批准案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本国皇帝(御名)  
此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治三十二年七月二十九日和蘭国海牙ニ於テ萬国平和會議ニ賛同シタル帝国全權委員ト各国全權委員トノ間ニ協議決定シ記名調印シタル「国際紛争平和的处理條約ノ各條目」ヲ親シク閱覽点檢シタルニ善ク朕力意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百六十年明治三三年(九)月(三)日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 国璽

外務大臣子爵 青 木 周 蔵

「……………」ハ夫々

(一) 「国際紛争平和的处理條約ノ各條目」

(二) 「陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約ノ各條目」

(三) 「千八百六十四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル條約ノ各條目」

(四) 「輕氣球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法

一七五 明治三三年九月四日

蘭国駐劄珍田公使ヨリ  
青木外務大臣宛

平和條約批准書供託式ニ關スル件

機密第三十七号

平和會議成約及宣言批准済ノ儀蘭国政府ヘ通知可致旨貴電第十二号ヲ以テ御訓令ノ趣敬承致候因テ早速公翰ヲ以テ右ノ趣ヲ当国政府ニ通知シ且ツ外務大臣ニ面会ヲ遂ゲ帝国政府ニ於テ既ニ批准ヲ与ヘタル以上ハ本書ノ着否ニ拘ハラズ本使カ常設評議會議ニ与カリ得ベキハ勿論ノ儀ト相信候旨申陳候処同大臣ニ於テモ同様ノ意見ニテ右評議會ニ關スル會議ニハ本官列席可致様取計可申旨回答相成候將又兼テ及御報告置候批准書供託ノ式ハ豫定通り愈々本日ヲ以テ「サール、ド、ラ、レーブ」院ニ於テ挙行サレ批准書到達ノ各  
国使臣ハ各之ヲ蘭国政府ニ納ムルノ手続ヲ終了致候本官ハ批准書未達ノ為參列不致候得共聞ク所ニ依レバ外務大臣ハ一場ノ演舌ヲ為シ平和會議ノ功業ハ永ク其續ヲ後世ニ垂レ人類ノ福祉ヲ増進スルニ至ルベシトノ希望ヲ陳ベクル末同大臣ノ發議ニ基ツキ右ノ希望ヲ表彰セル祝電ヲ露国皇帝ニ送呈スル事ニ決シタル趣ニ有之候又同会ニ於テ批准書ヲ納メタル者ハ前回報告以來独逸、葡萄牙其他二三国ヲ増候

ニ依リ投射物及爆裂物ヲ投下スルコトヲ五箇年間禁止スル宣言」

(五) 「寧息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ各自ニ禁止スル宣言」

(六) 「外包硬固ナル彈丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体内ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平ト為ルヘキ彈丸ノ使用ヲ各自ニ禁止スル宣言」

ト記入シタル六通

(附 記)

(右決裁)

内閣送第三一号

萬国平和會議ニ於テ各委員ノ記名調印シタル三條約三宣言書御批准ノ件ハ上奏ノ通裁可相成候間此段及御通牒候也

明治三十三年八月三十一日

内閣總理大臣侯爵 山県有朋(印)

外務大臣子爵 青木周蔵殿

得共詳細ヲ確メタル上ニテ追テ及具報可申候此段及具報候  
敬具

明治三十三年九月四日

在和蘭 特命全權公使 珍田捨巳(印)

外務大臣子爵 青木周蔵殿

一七六 明治三三年十月六日

蘭国駐劄珍田公使ヨリ  
青木外務大臣宛

萬国平和三約定及三宣言批准書寄託手続終了通知ノ件

機密第四十五号

十一月十六日接受

本年九月五日付機密送第五号ヲ以テ萬国平和會議議決ノ三約定及三宣言ニ対スル御批准書御送付相成落手致候仍テ早速外務大臣ト必要ノ打合ヲ遂ケタル末本月六日ヲ以テ当国政府ヘ右提供ノ手続ヲ了候又右御批准書保管證書ノ認證膳本ノ交付ニ關シ外務大臣ニ其時日ヲ問質候処右ハ今日ニ於テ確定難致候得共遅クモ本年十二月三十一日迄ニハ配付可致旨回答相成候而シテ右膳本ノ交付斯ク遅延スル事由ハ当

国政府ニ於テ六通若クハ六通以内ノ該約定及宣言批准書ノ保管書認證膳本ヲ批准国各別ニ作製シテ其ノ各別ノ膳本ヲ平和會議參同各国ニ配付スルノ計画ニ付總計数千枚ノ多数ニ達シ從テ印刷其ノ他ノ手続ニ余分ノ日子ヲ要候ト又一ニハ希臘、瑞西等ノ批准未済国ニ於テ近日批准ニ至ルベキ模様アルニ依リ当国政府ハ暫ク是等諸国ノ批准済ニ至ルヲ待テ可成多数ノ批准書ヲ得タル上ニ於テ前記膳本ヲ作製スルノ希望ニ有之トノ理由ニ基ク次第ナル趣ニ有之候右要領ハ本月六日電報ヲ以テ及具報候間既ニ御詳悉相成候儀ト被存候將又「ジエネバ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル約定ノ認證膳本送付ノ件ニ関シ当国政府ヘ照会ノ上同政府ヨリ在東京自国公使ヲ經テ送附可相成答ニ相成居候間左様御承知相成度別紙三約定及三宣言ノ御批准書保管書ノ写六通爰ニ相添右及御報告候敬具

明治三十三年十月六日

在和蘭 特命全權公使 珍田捨巳(印)

外務大臣子爵 青木周藏殿

第二 陸戰ノ法規慣例ニ関スル條約

|       |         |
|-------|---------|
| 独逸国   | 奥地利洪牙利国 |
| 白耳義国  | 丁抹国     |
| 西班牙国  | 仏蘭西国    |
| 大不列顛国 | 伊太利国    |
| 和蘭国   | 波斯国     |
| 葡萄牙国  | 羅馬尼亞国   |
| 露西亞国  | 暹羅国     |
| 勃爾牙利国 |         |

第三 千八百六十四年八月二十二日「ジエネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約

|       |         |
|-------|---------|
| 独逸国   | 奥地利洪牙利国 |
| 白耳義国  | 丁抹国     |
| 西班牙国  | 重米利加合衆国 |
| 仏蘭西国  | 大不列顛国   |
| 伊太利国  | 和蘭国     |
| 波斯国   | 葡萄牙国    |
| 羅馬尼亞国 | 露西亞国    |
| 暹羅国   | 瑞典諾威国   |
| 勃爾牙利国 |         |

關係列国間ノ協議ニ依リ上載諸国ハ本條約第十條ヲ

一七七 明治三十三年十月二十五日 蘭国公使ヨリ 加藤外務大臣宛

列国批准書寄托式舉行済通知ノ件

(訳文)

第四六三号

外務大臣閣下

和蘭国公使

以書翰致啓上候陳ハ本国政府ノ命ニ依リ左ニ列記セル諸国ハ去ル九月四日ヲ以テ曩ニ萬国平和會議ニ於テ調印セラレタル諸條約及宣言書ニ関スル批准書ヲ和蘭国政府ニ寄托シタルコトヲ茲ニ及御報告候

第一 國際紛争平和的处理條約

|       |         |
|-------|---------|
| 独逸国   | 奥地利洪牙利国 |
| 白耳義国  | 丁抹国     |
| 西班牙国  | 重米利加合衆国 |
| 仏蘭西国  | 大不列顛国   |
| 伊太利国  | 和蘭国     |
| 波斯国   | 葡萄牙国    |
| 羅馬尼亞国 | 露西亞国    |
| 暹羅国   | 瑞典諾威国   |
| 勃爾牙利国 |         |

第四(甲) 削除セリ 輕氣球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法ニ依リ投射物及爆裂物ヲ投下スルヲ禁止スルコトニ

關スル宣言

|       |         |
|-------|---------|
| 独逸国   | 奥地利洪牙利国 |
| 白耳義国  | 丁抹国     |
| 西班牙国  | 重米利加合衆国 |
| 仏蘭西国  | 伊太利国    |
| 和蘭国   | 波斯国     |
| 葡萄牙国  | 羅馬尼亞国   |
| 露西亞国  | 暹羅国     |
| 瑞典諾威国 | 勃爾牙利国   |

第四(乙) 竊息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁止スルコトニ

關スル宣言

|      |         |
|------|---------|
| 独逸国  | 奥地利洪牙利国 |
| 白耳義国 | 丁抹国     |
| 西班牙国 | 仏蘭西国    |
| 伊太利国 | 和蘭国     |
| 波斯国  | 葡萄牙国    |

羅馬尼亞國 露西亞國  
暹羅國 瑞典諾威國  
勃爾牙利國

第四丙)

外包硬固ナル彈丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人  
体内ニ入テ容易ニ開展シ若ハ扁平トナルヘキ彈丸ノ  
使用ヲ禁止スルコトニ關スル宣言

獨逸國 奧地利洪牙利國  
白耳義國 丁抹國

西班牙國 仏蘭西國  
伊太利國 和蘭國  
波斯國 羅馬尼亞國  
露西亞國 暹羅國  
瑞典諾威國 勃爾牙利國

右御通知旁本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候敬具  
千九百年十月二十五日東京ニ於テ

第十四章 雜 錄

一七八 明治三十二年十二月二十七日

露國駐劄杉村臨時代  
理公使ヨリ  
青木外務大臣宛

南阿事件ノ勃発ニ際シ萬國平和會議ノ使命ニ関  
シ「マルテンス」ノ意見送達ノ件

送第九十八号

明治三十三年一月十七日接受

竊ニ露國政府ヨリ派遣シタル海牙平和會議參列委員ノ一人  
タリシ外務省顧問官公法學博士マルテンス氏ハ今般トラ  
ンスバール事件ノ起リシニ際シ世人ガ海牙平和會議ニ屬望ノ  
多キヲ宜ヘ弁明的論文ヲ草シテ世上ニ公ニセリ右論文ハ  
(別添) 本月十六日刊行ノ官報ヲ始メトシ其筋ノ陸海軍事  
雜誌及諸新聞ニ普ク掲載セシメシモノニ有之即チ海牙平和  
會議ニ對スル當國政府ノ意見ト看做シ得ベキモノト存候ニ  
付御參考ノ為メ左ニ之ヲ抄訳差進候

俄然南亞弗利加ニ起リシ戰亂ハ自ラ世界文明諸國ノ注意  
スルトコロタリ実ニ海牙平和會議ノ閉会以來未ダ二ヶ月  
ヲ經過セザルニ既ニ再ヒ軍爭慘憺ノ狀ヲ見ルニ至ル

想フニ世人ガ海牙平和會議ニ望ヲ屬スルコト彌多ケレバ  
其多キニ從テ右平和會議ガ全フセシ事業ノ益少キヲ感ス  
ベク四海安穩ヲ切望スル諸友ガ流血淋離タル慘劇無カラ  
ン事ヲ欲スルノ念彌熾ナレバ其熾ナルニ伴ヒ南方亞弗利  
加ノ激戰ヨリ齎ラセル非道ヲ得テ憫哀ノ情ハ益真ニ逼マ  
ルベシ吁々世界ノ慈女慈男ガ赤十字ノ保護ノ下ニ於テ善  
專ヲ完フスルノ時再ヒ來レリト云フベキナリ

凡ソ戰亂慘狀ノ哀ムベキハ實ニ哀ムヘクシテ此間事理自  
ラ明瞭ナレドモ今日南亞弗利加ニ於テ懷涼タル修羅場ヲ  
演出スレバトテ何ゾ之ヲ以テ海牙平和會議ノ罪ナリト誣  
フルヲ得ンヤ抑モ如何ナル理由ニ基キテ海牙平和會議ガ  
有ラユル戰亂ヲ安除スベキモノナリト意思スルヲ得ルカ  
將又如何ナル論拠アリテ南亞弗利加ノ戰亂ハ海牙平和會  
議ノ反響ナリト断定スルコトヲ得ル乎

海牙平和會議ハ將來各國ノ間ニ於テ戰爭ヲ絶ツノ希望ヲ  
抱カザリシナリ斯カル想像ハ現世各國民間一切ノ關係ヲ